

地域を越えた絆をつくろう！

2泊3日の  
サマーキャンプ(静岡県)に  
福島県の子どもたちを招待

浜北医療生協



うれしそうに「セミの抜け殻見つけた！」

「カブトムシ見つけたよ!」「次は、何して遊ぶ?」

8月の太陽をものともせず、静岡県立森林公園のスポーツ広場では、子どもたちの歓声が響いていた。

浜北医療生協(静岡県)は、8月10~12日と24~26日に、福島県の子どもたちを静岡県に招待し、2泊3日のサマーキャンプを行なった。招かれたのは、福島医療生協、福島中央市民医療生協、そして郡山医療生協の組合員と職員だ。

この取り組みは、「被災地を想うひまわりプロジェクト」の一環として行なわれた。プロジェクトでは、震災発生直後の物資支援をはじめとして、継続的な被災地支援の取り

組みを行なっている。

今回のサマーキャンプは、「福島県の子どもたちを安心して遊べる地域に連れ出すことで、先行きに不安を抱く現地の人たちの気持ちを和らげたい。福島県の子どもたちの低線量被曝・内部被曝を少しでも軽減したい」との気持ちから企画されたもので、参加者は緑いっぱいの公園で遊んだり、プールで泳いだりして過ごした。

今回のキャンプには、ボランティアスタッフとして組合員が多く参加し、自宅の畑で作っている野菜を提供したり、子どもたちと一緒に遊んだりした。高校生の川島栄里かわしまえりさんは、「遊んでいるうちに、知らない

子同士が仲良くなっていったんですよ」とうれしそうだ。

このキャンプの村長を務める、組合員の近藤裕夫こんどうひろおさんは、「子どもたちが何の心配もなく外で過ごし、太陽の下で力いっぱい遊んでいる姿を見ると感無量です。それをうれしそうに見ている保護者の笑顔を見ると、疲れも吹き飛びますね」と目を細めた。

浜北医療生協組織部長の高瀬たかせのぶきのぶきさんは、「地域を越えた絆をつくることができれば、長い戦いもきっと頑張れると思うのです」と、この取り組みに対する思いを語る。

絆でつながる支援活動は、まだまだ続いていく。



組合員が育てた野菜を洗うキャンプのボランティアスタッフ。奥から2番目が、キャンプの村長の近藤裕夫さん。



元気いっぱいに遊ぶ子どもたち。